

TAMA CINEMA 通信



TAMA CINEMA FORUM

TAMA映画フォーラム実行委員会 〒206-0025 多摩市永山1-5 ベルブ永山(永山公民館内)
代表:042-337-6661 直通:080-5450-7204 <http://www.tamaeiga.org/>

特別上映会 2/28 日曜日 ベルブホール (ベルブ永山 5F 京王永山駅・小田急永山駅下車徒歩約2分)

前売 大人(中学生以上)1,000円 当日 大人(中学生以上)1,200円 子ども(4歳~小学生)600円

* TAMA 映画フォーラム支援会員、障がい者とその付添者1名は当日600円です。



[上映時間]

- ① 10:30 - 11:51
- ② 13:30 - 14:51
- 14:51 - 15:30

[トーク]

小倉 悠加 氏

- ③ 16:30 - 17:51
- ④ 18:30 - 19:51

- * 全席自由・各回入替制。開場は15分前です。
 - * 上映時間は変更になる場合があります。
 - * トークはチケット(半券含む)提示で入場できます。
- PG12: 12歳未満の鑑賞には保護者の助言・指導が必要です。

🐎 企画者からのメッセージ 🐎

2015年が始まって早くも2か月が経とうとしていますが、TAMA映画フォーラム実行委員会にとっては2月が1年の始まりです。映画祭が始まって25年目、最初の特別上映会で上映するのは『馬々と人間たち』です。監督はアイスランド演劇界で活躍する演出家ベネディクト・エルリングソン。長編監督第1作品目にして本国アイスランドをはじめ世界中で愛される本作品を生み出しました。日本では第26回東京国際映画祭で最優秀監督賞を受賞しています。

主人公はアイスランドの小さな村に暮らす人々と馬たちです。村人たちはお互いをよく観察しあっており人間関係もなかなか複雑のよう。それを更によく観察しているのが共に暮らす馬たちです。人間のエゴや争い、恋愛模様は馬たちの目にどう映っているのでしょうか。しばしばスクリーンに映し出される馬たちの穏やかで美しい瞳からは、そこに映っている風景しか見てとることはできません。ドタバタ劇を演じる人間を哀れに思って寄り添ってくれているようにも見えてきます。馬から見た人間という独特な視点で描かれた稀有な物語を存分にお楽しみいただければ幸いです。

第2回上映後にはアイスランド事情に精通し、監督のご自宅を訪れインタビューされた小倉悠加さんによるトークを行います。こちらも是非ご参加下さい。(谷口 舞)

小倉悠加 (おぐら・ゆうか) 氏 プロフィール

中学生時代に洋楽に目覚め、アメリカに高校留学。学生時代に湯川れい子氏のアシスタントを務め、後に大手レコード会社に就職。その後、音楽ジャーナリスト、通訳翻訳、海外渉外など音楽業界で働く。カーペンターズの全アルバム解説と対訳を担当したことから、国内外でカーペンターズ研究家として知られる。2002年アイスランド音楽サイトのコンテンツ制作をきっかけにアイスランドの国と文化に興味を持つ。2004年に(有)アリオス・エンタテインメントを設立。以来、アイスランド文化を幅広く紹介するとともに独自ツアーの企画、雑誌取材やレコーディングなどの現地コーディネーションを行なっている。エコ・環境やエネルギー対策、男女平等をテーマにアイスランドに関する講演も多数。なかでもアイスランドの音楽フェスティバル「アイスランド・エアウエイブス」ツアーは2015年で10回目を迎える。アイスランドへの渡航は20回以上。

特別上映会特設ページ <http://www.tamaeiga.org/special/umauma>

「第24回映画祭 TAMA CINEMA FORUM」は2014年11月22日(土)～11月30日(日)に開催されました。

第6回 TAMA 映画賞授賞式 11月22日(土)

開催6回目にして初めて前売り段階でチケットが完売し、開場前には数百メートルに及ぶ長蛇の列。ご登壇者に近い前列の席からあつという間に埋まっていきました。

太賀さん、菅田将暉さん、門脇麦さん、能年玲奈さん、坂本あゆみ監督、薦哲一朗監督ら若手のご登壇者は緊張の面持ちながら落ち着いた受け応えでお客様に親しみを与えていきました。妻夫木聡さん、池脇千鶴さん、サプライズで武田梨奈さん、大西信満さん、常盤貴子さん、村田雄浩さん、寺島咲さんら豪華な顔ぶれが続々ご登壇。

なかでも会場を盛り上げたのは、『青天の霹靂』の劇団ひとり監督と大泉洋さんのコンビ。即興とは思えない軽妙なやりとりで会場を爆笑の渦に巻き込みました。最優秀作品賞『ぼくたちの家族』の石井裕也監督の既に貫禄溢れる壇上での立ち居振る舞いに誰もが感心した後、最優秀作品賞『野のなななのか』の大林宣彦監督がご登場。「政治や経済は競争社会だから戦争に結びつき易い。しかし、芸術はどんなに違っていても共存する。芸術が政治・経済と三位一体となって、日本の平和にお役に立ちたい」と語られ、充実した授賞式を万雷の拍手で締めくくってくださりました。



第15回 TAMA NEW WAVE コンペティション 11月29日(土)

本格派映像作家の輩出を志し、スタートしたTAMA NEW WAVEも15回目を迎えました。全国各地から毎年100本以上が集い、今年も111作品の応募がありました。コンペティションで6作品が上映され、各賞を競いました。

プロの視点から選出される特別賞にはゲストコメンテーターの西ヶ谷寿一プロデューサー、日向朝子監督両名が推した大内伸悟監督の『知らない町』が受賞。そして、実行委員票と当日の一般審査員票で決定するグランプリには竹内里紗監督の『みちていく』が選ばれました。竹内監督はご都合により欠席となりましたが、主演の山田由梨さんが「スタッフが5人しかいない現場で、キャストも制作を兼ねながら作った作品が評価されて嬉しい」と監督の想いを代弁。

個人賞では同作品の山田さんがベスト女優賞を、『ふざけるんじゃねえよ』の金正允さんがベスト男優賞を受賞されました。これまで応募された監督の活躍も光り、若き才能を広く支援・応援していく所存です。

第15回 TAMA NEW WAVE

— 骨のある人求む！来たれ！本格派映像作家！ —



11月30日(日) クロージング特別上映作品 (無料試写会)

『KANO ～ 1931 海に向こうの甲子園 ～』

永瀬正敏さん演じる近藤兵太郎監督の希望に満ちた台詞で映画が終わり、会場には『KANO』という素晴らしい映画に出会えたこと、登壇されたマー・ジーシアン監督、ウェイ・ダーシヨンプロデューサーへの賛辞を表す温かな拍手が広がりました。

試写会を通じて、この希望にあふれた映画が多くの人々を魅了していくことを確信しました。





TAMA CINEMA FORUM 実行委員による

2014年 本当におもしろかった映画の紹介

『7番房の奇跡』(イ・ファンギョン 監督) [韓国/127分]

2014年本当に面白かったし、本当に泣いた『7番房の奇跡』。そもそも、笑えて尚且つ泣ける、そんな作品に弱いです。単純ですが。

知的年齢6歳の父親とその娘…あ、『アイ・アム・サム』みたいな、例によって娘は超賢いあの設定！貧しいながらも幸せに暮らしていた親子。父親が誤認逮捕されてしまうことにより巻き起こるあれこれ。実話じゃなくて良かったなと思ったと同時に朝一に観てしまい、まんまと泣きまくって、その日一日中、腫れぼったい感じで過ごさなければならなかったことだけは後悔しています。(中川)

『抱きしめたい - 真実の物語 -』(塩田明彦 監督) [123分]

恋愛ものは苦手、最近泣いてない、ポッチャって何？このどれかにあてはまる人にお勧め。いわゆる“美男女もの”とは趣を異にした味わい深いヒューマンドラマである。

タクシードライバーの雅巳(錦戸亮)が偶然出会った車椅子のつかさ(北川景子)と恋に落ちる物語。胸キュン要素もアリだが、謙虚でおとなしい人達、という「イメージの障害者」と「一人の生きた女性」とのズレを繊細に描いている。「ズレ」に正面から向き合おうとする雅巳の行動にはただ、もう涙。

雅巳が困難に打ち勝つラストは平凡だが、泣かせるだけで終わらせない爽やかな後味がある。(※ポッチャは本作に登場するスポーツ！)(藤枝)

『アクト・オブ・キリング』(ジョシュア・オッペンハイマー 監督) [イギリス・デンマーク・ノルウェー/121分]

1960年代にインドネシアで「共産主義者撲滅」の名の下に行われた100万人規模の大虐殺の加害者による再現映画の作製の過程を記録したドキュメンタリー。

とにかくTSUTAYAで借りて観てください。勝者の論理が歴史だと驚くほどあっけらかんと映し出されています。嬉々として殺人のテクニックを披露する人間の思考回路の素直さ。人間って本当に救われない生き物だと良くわかります。(竹内)

『滝を見にいく』(沖田修一 監督) [88分]

『南極料理人』『横道世之介』などで知られる沖田監督の最新作。紅葉と滝を見にきたはずが、山の中で迷子になってしまう7人のおばちゃんたちのお話です。沖田監督作品のゆるさが好きで公開を楽しみにしていましたが、期待を裏切らない面白さ！おばちゃんたちの表情や台詞に吹き出さずにいられません。

この7人、全員がオーディションで選ばれており、なかには普段は主婦をやっているという方も。自然体の演技にも納得です。まだ公開中の作品ですので、気になった方は是非劇場で。(小林)

『歩行と移動』(藤田貴大 監督) [約20分×5作品]

演劇界ではここ数年急激に注目を集めているマームとジブシーの藤田貴大氏の短編5本からなる作品。横浜の実際に撮影された場所の付近でそれぞれの映像を公開した。

1本20分程度でシナリオのベースは共通だが、作品ごとに主演者が異なり独特の味わい深さがある。当然のように脚立がでてくる。音楽は原田郁子さん。横浜の映画館で一晩だけ5作品まとめて上映された。今年は「cocoon」の再演も期待される。(吉野)

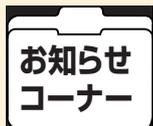
おまけ 2014年本当におもしろかったドラマ『甲殻不動戦記 ロボサン』

人気急上昇中のグループ「私立恵比寿中学」の面々が主演したロボットドラマ。かつて人類の危機を救い、今は動かなくなったロボットの内部に集う女子中学生たち。彼女たちの無邪気でぐだぐだした日常と再び訪れる人類の危機がうまく絡み合っただけでストーリーが進む。ドラマ前半の何気ないシーンが後半の伏線になっていたりするシナリオは鮮やか。メインのシナリオライターはシベ超と名前が似ている劇団「シベリア少女鉄道」の土屋亮一氏。ちなみのシベ少の次回の舞台にはエビ中からスーさんこと安本彩花さんが出演します。こちらも期待。(吉野)



次回特別上映会は **ミンヨン 倍音の法則**
 Sasaki Shoichiro
 Harmonics Minyoung

次回特別上映会は、数々の国際賞に輝く映像作家・佐々木昭一郎監督作品『ミンヨン 倍音の法則』を上映予定です。上映時間など詳細は、ホームページ <http://WWW.tamaeiga.org/>、チラシなどをご覧ください。



第25回映画祭TAMA CINEMA FORUM

今年の映画祭は11/21日(土)～11/29日(日)に開催予定です。皆さん、どうぞお楽しみに!

映画祭新実行委員を募集!

TAMA 映画フォーラム実行委員会は、2015年11月21日(土)～11月29日(日)に開催予定の第25回映画祭 TAMA CINEMA FORUM を一緒に作る実行委員を募集しています!

上映プログラムを企画したい、イベント運営に興味がある、広報・宣伝をやりたい... など、映画祭づくりの現場には、あなたの希望に沿って力を発揮できる領域がたくさんあります。また、映画好きやイベント好き、地域の方々など、市民が作る映画祭だからこそその出会いがあなたを待っています。

この度3月22日(日)に説明会を開催いたしますので、興味のある方はお申込のうえ、ぜひご参加ください。また、説明会は今後も5月に開催を予定しておりますが、日程の合わない方は個別に説明いたしますので、お気軽にご相談ください。

詳細はホームページ <http://www.tamaeiga.org/> をご覧ください。

支援会員制度のお願い

当映画祭を一緒に支えて頂ける支援会員を募集しています。映画を「見る人、見せる人、創る人」の交流の場づくりを通じた、地域と日本映画界の活性化に向けて、資金面でサポート頂けませんか。ご支援頂いた方には特典をご用意していますので、ぜひご協力をお願い致します。

[支援金寄付 個人会員]

一口1000円

郵便振替番号 00160-5-541123

加入者名 TAMA映画フォーラム実行委員会
 (ご不明な点はお問い合わせ下さい)

特典①:映画祭チラシ送付

特典②:映画祭パンフレット贈呈

特典③:特別上映会割引(当日料金が半額!
 2～8月の間に4～5回開催予定)

※その他特典もご用意する予定です。

シベ超ニュース

先月、何気なくテレビをついたらシベ超の新作をやっているびっくりしました。と、思ったら三谷さん脚本の「オリエント急行殺人事件」でした。ちなみに三谷さんはシベ超のDVDBOXを持っているらしいです。今年シベ超の新作が作られるか。括弧して待ちます。



TAMA映画フォーラム実行委員会ホームページ www.tamaeiga.org/

@tamaeiga (最新情報をフォロー) www.facebook.com/tamaeiga (facebookページに「いいね!」で参加)